

鈴木明彦<sup>1</sup>・圓谷昂史<sup>2</sup>：北海道奥尻島球浦海岸へ打ち上げられた珪化木

Akihiko SUZUKI<sup>1</sup> and Takafumi ENYA<sup>2</sup> : A petrified wood washed ashore on Tamaura Beach, Okushiri Island, Hokkaido

珪化木は、材がシリカ（二酸化珪素）によって置換されたもの、あるいは地層中の水溶シリカが材の細胞内部に沈着または沈殿したもので、ふつうは陸成堆積物（湿地性、河川性、火山性など）の中に含まれている（寺田 2008）。

奥尻島（図1）では、古第三紀や新第三紀の地層中～地層中から珪化木が産出する（秦ほか 1982；秦 1997）。これら奥尻島から産出する珪化木については、たとえば奥尻町歴史民俗資料館で立派な標本の展示はあるものの、個々の珪化木標本の特徴や漂着記録についての記述や報告はない。

2017年6月30日に北海道の奥尻島球浦海岸（北緯42°11′59″，東経139°32′15″；図1）で、打ち上げられた珪化木の礫（図2）を採集した。この礫は、中礫サイズ（82.4×52.5×25.8mm）の亜角礫である。肉眼観察では、薄褐色～褐色を呈し、板状の形態を示す。表面には明瞭な木目や年輪が見られることから、珪化木に同定した。

奥尻島の主要な地質は、白亜紀の深成岩類・火山岩類と、それらをおお古第三紀～新第三紀の堆積岩類・火山岩類である（秦ほか 1982；岡村 2010）。これらは、下位から青苗層群（松江玄武岩層，烏頭川層，青苗川層），釣懸層，千畳層，米岡層，仏沢層，神威山層及び勝潤層に区分される（秦ほか 1982；岡村 2010）。このうち青苗層群は火山噴出物を主体とする陸成層（雁沢 1987）である。その上位に当たる釣懸層，千畳層，米岡層及び仏沢層は海成層である。

このうち珪化木の産出が確認されているのは、烏頭川層，青苗川層及び釣懸層である（秦ほか 1982；秦 1997）。今回採集した珪化木は硬質で炭質部分がほとんど見られず，漸新統（烏頭川層，青苗川層）からの珪化木に類似していた。中新統（釣懸層）の珪化木はむしろ炭化した材化石で，珪質というより石灰質団塊中に含まれている。青苗川層は奥尻島北部，烏頭川層は同島南部にそれぞれ分布すること（図1）から，この珪化木標本は北部に分布する青苗川層に由来するものと考えた。なお，珪化木の樹種の同定は今後の課題としたい。

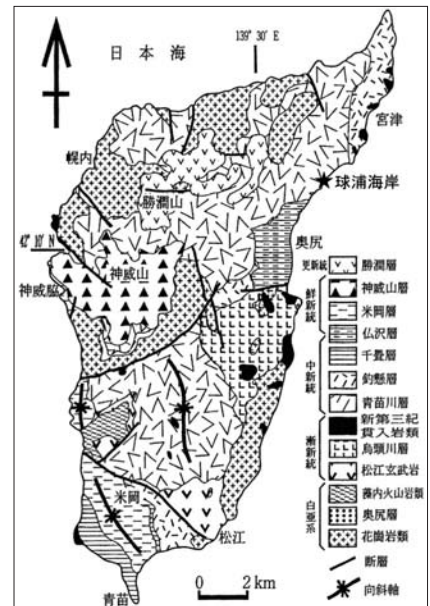


図1 北海道奥尻島の位置（岡村 2010を改変）



図2 球浦海岸に打ち上げられた珪化木

引用文献

雁沢好博. 1987. 東北日本円弧内帯の白亜紀-第三紀火山岩のフィッシュン・トラック年代-奥尻島・男鹿半島・朝日山地-. 地質学雑誌 93 : 387-401.  
 秦 光男. 1997. 第2章 第3節 地質, 119-152. 奥尻町史編さん委員会編, 新奥尻町史 (上巻), 奥尻町役場, 奥尻.  
 秦 光男・瀬川秀良・矢島淳吉. 1982. 奥尻島北部及び南部地域の地質. 地域地質研究報告 (5万分の1図幅), 83pp. 地質調査所, 東京.  
 岡村 聡. 2010. 新第三紀の島弧会合部の地質体, 北海道西部 奥尻島地域, 179-180. 日本地質学会編, 日本地方地質誌 北海道地方, 朝倉書店, 東京.  
 寺田和雄. 2008. 日本から産出する珪化木について. 化石 83 : 64-77.

(Received Mar. 15, 2018 ; accepted Apr. 15, 2018)

<sup>1</sup>〒002-8502 札幌市北区あいの里5-3-1 北海道教育大学札幌校地学研究室

<sup>1</sup> Department of Earth Science, Sapporo Campus, Hokkaido University of Education, 5-3-1 Ainosato, Kita-ku, Sapporo 002-8502, Japan

<sup>2</sup> 〒004-0006 札幌市厚別区厚別町小野幌53-2 北海道博物館

<sup>2</sup> Hokkaido Museum, 53-2 Konopporo, Atsubetsu-cho, Atsubetsu-ku, Sapporo 004-0006, Japan